

子どもの外遊び環境改善と地域コミュニティの活性化

～寺院施設の使用状況の視点から～

スポーツマーケティングゼミナール 1313030 小林 弘大

1. 研究動機・研究目的

近年、地域コミュニティにおける課題として、子供の外遊び機会減少と、住民同士のつながりの希薄化があげられる(岡正, 2012)。その原因は、手軽なスポーツや外遊びの場であった空き地や生活道路が減少し、子どもが自由に運動を行える環境が不足していることがあげられる。また地域のつながりの希薄化が指摘されている中、つながりが弱くなった理由として「人々の地域に対する親近感の希薄化」と「近所の人々の親交を深める機会不足」の2つがあげられる(国民生活白書, 2007)。

その中で、日本古来の地域コミュニティの中心として機能するものの一つに寺院があげられる。しかし現在、寺院が抱えている問題の一つとして地域住民との関わりが「葬式仏教」という言葉があるように、葬儀のときだけに限られるようになっており、地域住民の仏教離れ、寺院離れが進行している(山内, 2012)。ただ、その公園とは違い規制項目が少なく、管理者が明確に存在し、安全面も保障される寺院に焦点を当て、子どもの外遊び環境の新しい施設として有効なのか寺院敷地に注目した。また、衰退しつつある地域コミュニティを活性化するために、元来は身近な存在であった寺院施設を再び活用できないかと考えた。

そのため今回は、地域における寺院敷地の使用状況と地域への開放意向を調査し、子どもの遊び場としての活用と地域コミュニティの活性化の可能性を明らかにした。

2. 研究方法

調査期間：2016年11月26日(土)27日(日)

調査対象：関東圏にある真言宗豊山派の住職・副住職5名

調査方法：インタビューによる直接質問法 半構造化面接

質問項目は、寺院の現状の活動について、今後の寺院の経営について、地域住民との関わりについて、寺院敷地開放についての4つを中心に行った。

3. 主な結果と考察

インタビューの結果、寺院は宗教活動を中心に活動しており、特別な活動を行っている寺院は少なかった。ただ現在の活動に対してほとんどの寺院が満足しておらず、その要因として社会との関わりを今以上に持ちたいという仏教の教えに対してのものからであった。また、今後の経営に危機感を抱いている寺院もあり、檀家数が少ない寺院ほどその傾向がみられた。対策として、今の時代にあったサービスやより寺院を身近な存在にするといったものが挙げられた。それは原(2014)が指摘しているように、寺院をなくてはならないと思わせるためには寺務以外にも地域に対して独自の活動を行わなくてはならないという意識があるためだからだと考える。

地域住民との関わりは一カ寺を除いて薄まっている。それは、地域のコミュニティの衰退が、寺院側にも及んでいるためと思われ、今後もその関係性を発展させたいといったような意見は出なかった。寺院側は、以前は町内会や自治会などの組織で活動していた地域が、個人単位に分裂したため、どのような関わりをしたらよいかを模索しているような状態であった。

寺院敷地開放に関してはどの寺院も賛成の姿勢を見せていた。既に、敷地を開放し活動している寺院はもちろんのこと敷地が狭く遊び場を確保できない寺院や、地域住民があまり周辺にいない地区の寺院であっても開放意向があるのは、先行研究からわかるように、寺院の公益性を重要視しているためだと思われる。子どもの外遊び場としての開放についても賛成はしているが、怪我をした際の責任の所在や、檀家との兼ね合いが今後の課題と考えられる。憩いの場としての開放という点についても、意向はあるもののあまり積極的な姿勢は見せておらず、ここでも地域住民との関係性の希薄化が、起因していると考ええる。

4. 結論

今回の調査では、寺院は敷地の開放に向けては肯定的であるということがわかった。しかし、寺院は先行研究から分かるように、人々の仏教離れから起因する、檀家数の減少や葬儀自体の減少など、寺院を運営していくうえで様々な課題を抱えており、開放に対して具体的な方策を考えている寺院は少なかった。ただ、今回の論文の目的である開放意向を調査するという点に関しては、達成することができた。

そして今回の調査結果では、地域との関わりのない寺院の存在が浮き彫りとなった。唯一地域との連携が取れている寺院は、普段から地域住民との接点の持つことができるような機会を設けている点あげられる。そこで、寺院に地域住民が使用できる休憩所のようなパブリックスペースを設けることを提案したい。それにより、利用者は新たなコミュニティが生まれ、寺院側は敷居が高く近寄りやすい寺院の印象を少しでも和らげることができ、結果的に寺院に足を運んでもらうので利用者とのコミュニケーションを取る機会が増えると考えられる。

5. 引用参考文献

- ・元山公寿(2015):現代日本仏教の社会的役割―“Engaged Buddhism”をめぐる―
- ・山内賢二他(2012):地域コミュニティ振興に生かされる寺院の役割 千葉県旧山武町地域における寺院と住民のつながりの調査を通して

6. 卒業論文の執筆を終えて

本論文にあたり、お忙しい中ご協力いただいた寺院関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。その中でも、調査対象の検討の際に、協力していただきました父には、一層の感謝を申し上げます。そして、本論文のご指導いただきました指導教官である工藤先生には、格別のご指導頂きましたことを、深く御礼申し上げます。最後に、楽しい時も辛い時も、励まし合い共に過ごしてきた4年生のみなさん、ありがとうございました!